

あがたの森の梟^{ふくろう}

田 鍬 到 一

「あがたの森」には何時の頃からか梟がいた。それもかなり古い時代からであろうと自分勝手に想像している。

若い頃、老先輩から「梟の啼き似はしたらいかんぞ」と言われた記憶があるものの、ホーホーとその哀愁を帯びた鳴き声に、私は何となく「もののあはれ」を感じていた。昭和四十六年に県神社に赴任して、その夏には梟の鳴き声を聞くことを得た。

県祭と大弊神事の二大行事を乗り切る作業は、心身共に疲れる例年の難事であった。只この時期には境内の梟の声聞くことで、生活に霈いが保たれていたと思う。境内の鳥居をくぐると、すぐ左に県井が在り、嘗てその横に榎の大木が在って、そこに梟が来て鳴いていた。

榎が枯死して後、梟は別の場所へ移動したらしく暫くその声を境内で聞くことは無

かった。ところが何年前から境内の椋の大木に梟が来て鳴くようになって、懐かしい哀調は私の好みとするところではあるけれども、一度もその姿を見たことはなかった。

しかしこの夏のこと、近所のバードウォッチカメラマンの福井さんの姿が境内にあり、県の森の梟をそのカメラのファインダー中で初めて見る事が出来た。念願が適い事始行事(しめ縄作り)のメンバーでもある福井さんにプリントを請い、数枚の梟の写真を得て神社に保存している。

県の森の御神木に来て鳴く梟は、県神社の守護鳥であると共に参詣者の救護鳥ではないかと、秘かに独り決めて悦に入っている。

平成二十九年九月三十日

(掲載の梟の写真は福井均より提供された)



グランプリ

「最高潮」

… 中井正寛

あがたの杜

第6回

写真
コンクール

入賞作品展



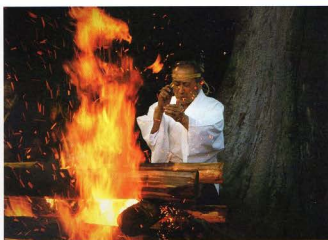
「祈願」… 澤田充広 優秀賞



優秀賞 「雪の日のお参り」… 川口喜美恵



優秀賞 「お巡りさんも走る」… 澤田靖子



講評

日本写真家協会会員 溝縁ひろし

今年五月、「ゆかいな写真仲間たち」と、ロシア第二の都市サンクトペテルブルクに行きました。国立アカデミー文学館・プーシキンドームで写真展をしたのです。

場所柄、テーマは「日本の文学」。参加者からは古典から現代文学に関わる写真が集まり、幅広い展示ができました。日本への関心は高く、期間を延長するほど好評だったと聞いています。私のテーマは「宇治十帖」でしたが、これも研究されているそうです。

帰国すると、しばらくして「県祭」がありました。県神社の「県祭」は、全国的に知られています。沿道に並ぶ露店や夜中の梵天渡御など、他にはない貴重な文化。いつか海外でも写真で紹介できたらと思いました。

写真コンクールのグランプリ「最高潮」は、梵天神輿の御幣の揺れをストロボ光の多重を駆使して表現した技ありの一枚。会長賞「いい香り」は、境内の紅梅と白梅が揃って満開を迎えた時、訪れた方が香りを楽しむ様子がよく撮られていました。



県の杜の「やまぶき市」

ちはやぶる宇治の未来をつくる会 代表 森田 誠 二

「ちはやぶる」という和歌の枕詞は「神」と「宇治」のみにつく！おそらく古の人たちは「神」なる何かを「宇治」にみていたのに違いない！！このロマンあふれる“思い込み”を情熱の原動力として2016年4月、「ちはやぶる宇治の未来をつくる会」という団体（政治団体ではありません。）をたちあげ歴史まちづくりの活動をスタートさせました。菟道稚郎子ゆかりの二子山古墳周辺の景観保全フリーマーケットに始まり、天智・天武という二人の天皇に愛された万葉の歌姫・額田王が初めて和歌を詠んだ場所といわれる下居神社での短歌会。古の巨椋池を最先端技術で再現した世界初360度ARパノラマ映像、そしてラジオ番組「ちはやぶるラジオ」の制作・放送などなど。振り返ると1年半で21回のイベントを催し、NHKのテレビ番組や新聞などで28回とりあげていただいた結果、徐々に「ちはやぶる宇治」という言葉が世間に浸透してきました。私たちが考える「ちはやぶる」とは「時空を超えた利他精神」。世界の名だたる知識人たちが、人類の未来を救う唯一の方法として掲げる利他精神。それが宇治の固有価値として、昔からこの地に深く息づいています。そのことを地理的・歴史的背景から導き出しました。



宇治に住む人たちのそうした営みを、その思いを悠久の時の流れのなかで静かに見守ってきた県の杜の神様。今年の4月から始めた「やまぶき市」は、その神様の前で利他精神を持ち寄り自ら楽しむフリーマーケットです。

「やまぶき」は宇治の市の花。昔から「県の井戸」「蛙」とセットで和歌に詠みこまれています。「蛙なく県の井戸に春暮れて散りやしぬらむ山吹の花」（後鳥羽院御製）。

現在は県の井戸は御所の西にあると言われていますが、古文書「波満知登里」には「名所国府に云う、県の井、山城なり」とあります。また『歌枕考』（奥村恒哉 1995）でも様々な根拠のもと、県の井戸は県神社にある神聖な泉である事を導き出しています。

「やまぶき市」では、そのことをたくさんの方に知ってもらい、県神社がある事を誇りに思い、県神社を中心として地域の人たちの「信頼」に基づいた顔の見える関係性をつくっていききたいと思っています。次回は来年3月に実施予定です。ぜひお越しください。

